

ひがしあわりの窓

平成25年11月発行 第15号

基本理念

患者さんの立場に立ち、基本的人権を守り、より安全な医療を提供します。

児童・思春期ユニットの1年

司法精神医学部長 吉岡 真吾



昨年の5月に本誌第9号で紹介した児童・思春期ユニットは、スタートして1年が経過しました。

最初の1年間(平成24年7月1日から平成25年6月30日まで)のユニットの動きについて、スタッフがまとめてくれましたので、そこから一部をここで紹介します。

全部で36人の子供が入院しました。年齢は11歳から19歳まで、男子が8名と女子が28名です。女子が多い理由は色々と考えられますが、この年代で「入院して治療する」という方法が適した状態の子供には女子が多かったということでしょう。

入院してきた時の状態としては、気分が沈んで何もしたくなってしまった状態(うつ状態)や自分で自分の体を傷つける行為(自傷行為)、誰もいないのに命令してくる声に混乱した状態(幻覚妄想状態)、家族など周囲の人と調子を合わせて生活できない状態(コミュニケーション障害)といったものが多いようでした。平均の入院期間は約70日でした。

また今年の6月からは愛知県立大府養護学校から教師を派遣して頂けるようになりました。小学生と中学生は入院中に専門家による教育も受けられるようになりました。また体育館や別病棟の中庭を使ってスポーツをする機会も作るようにしています。

この1年間を振り返ってみると、まずは大きな事故もなく、それぞれの子供は退院して自宅に戻るなり計画された方向へと進んでいったと思います。

私自身感じたことからいくつか挙げます。1)女子の比率が高いと、男子を入院させたくてもさせられないことがある。ユニットでの共同生活を考えると、純粋に病状だけではなく対人行動のあり方に注意を払う必要があります。2)平均入院期間が意外と長いと感じました。入院中の生活も疾患の治療以外にも、学習やスポーツ、グループ活動などをもっと充実させて、入院生活の中での体験を多様なものにしたいと思います。3)精神科の病院に入院するという体験を、その子供にとって可能な限り収穫が大きく、かつ痛手が小さいものにしてゆきたいと思います。特に他の子供やスタッフとの共同作業から「人との交わりから喜びを得る体験」、作品を作り何かを「生み出し完成させる体験」などを盛り込めたらと思います。何よりも治療という環境の中で「将来を期待され見守られる体験」をして頂きたいと思います。もう一つ、子供に関わってゆくためには教育や療育、行政といった面での色々な方々とのつながりが本当に大切なのだとますます感じるようになりました。

皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

新職員のご紹介



森本 佳代子

10月1日付けで東尾張病院に赴任しました、副総看護師長の森本佳代子と申します。
緊張の初日、最初に出迎えてくれたのが金木犀の香でした。地方出身の私は名古屋は都会…のイメージがあるのですが、病院の周囲は緑に囲まれていて、とても癒されています。
先日参加した運動会では患者の皆様のパワーと可能性を感じ、とても楽しい時間を過ごしました。
病院で患者様と言葉をかわすと必ず言われるのが、「関西の人?」の一言です。「おはようござります」の挨拶だけで言われた時には、とてもびっくりしました。関西出身とはまではいかないので、三重県出身の私、言葉はどちらかというと関西圏のイントネーションです。言葉はアウェイですが心はホーム、患者様に寄り添った医療の提供ができるよう頑張っていきたいと思っています。
どうかよろしくお願いします。



佐藤 贊治

はじめまして。

10月からこちらにお世話になることになりました薬剤科長の佐藤です。

名前はまず誰からも読んでもらったことがないのですが、「よしはる」と読みます。

今まで総合病院ばかりを経験してきましたが、精神科単科の病院で働くのは初めてです。慣れるのにまだまだ時間がかかりそうですけど、みなさんのために精一杯がんばりますので、よろしくお願いします。

お薬をのむタイミング

薬剤師 浅野 真美



今回は薬剤科からお薬を服用する時間についてお話ししたいと思います。

お薬をのむタイミングとして、起床時や食間などいろいろありますが、内服薬の多くは食後(約30分)と指示されます。これは比較的胃を荒らさないことと、食後とすることでのみ忘れを防止するためです。30分はあくまで目安であり、正確である必要はありません。特別な場合を除いて、毎食後のむ薬は食事を取らなくても、だいたい3回に分けて内服して構いません。

それとは対照的に、内服時間を必ず守らなければならない薬剤もあります。

例えば、食後の過剰な血糖上昇を抑える薬や、速効性のあるインスリン分泌促進薬は、期待する効果を得るために、副作用を引き起こさないために、必ず食直前(食前5~10分以内)に内服することとされています。また、骨粗鬆症のお薬の中には、胃の中に何もない時間である起床時に内服し、内服30分後まで水以外は口にせず横にならないこととされるものがあります。なぜそのようにするかというと、胃や腸からの吸収が極めて悪く、また、胃や腸に強い刺激があるためです。

このように、薬の服用時間には様々ありますが、薬の袋に指示された服用時間では不都合がある、つい忘れてしまう、などということがあれば、医師または薬剤師に相談して下さい。もちろん、不便でも服用時間を必ず守らなければならない薬もありますが、比較的融通が利く薬もあります。無理にその薬の一番理想的な服用時間に縛られるよりも、ともかく薬をのむことが大切です。

精神科訪問看護に携わって・・・

副看護師長 野田 典子

「精神科訪問看護」は精神に障がいをもちながら家庭や地域で生活する人の生活をサポートするサポート隊です。障がいとつきあいながら生きる皆さんの様々な相談に応じながら、症状や薬の援助のほか、病気によって生きづらくなった生活をどうしていったらよいか一緒に考えたり悩んだりしています。時には病状による様々な体験や家族や会社・友人との間に様々な葛藤にふれ心動かされ教えていたことがあります。そして、自分の「あたりまえ」は「あたりまえでない」と気付き、価値観の転換があり人生の幅が広がる仕事をさせて貰っていると思っています。

日頃、もう少し周りに良いサポートがあれば、やっていけるのに・・・等と思っていらっしゃる方はいませんか。相談は主治医や外来看護師へ遠慮なくお申し出ください。

右のバルーンの声は利用者さんよりいただきました。みなさんは如何ですか?



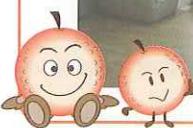
第6病棟の紹介

第6病棟は、社会復帰・退院促進に力を入れている慢性期開放病棟です。2012年7月には、病棟の建て替えに伴い12床の児童・思春期専門治療病床が新たに開設されました。

慢性期開放エリアでは、長期入院の患者さんの社会復帰に向けて、『TST』と呼ばれる退院準備プログラムや、社会生活技能の回復を目的としたSST(生活技能訓練)を実施しています。第6病棟の特徴でもあるTSTでは、患者さん自身が疾患について勉強し、服薬・金銭管理・調理などの実践、施設見学などをていきます。看護師、作業療法士、医師、精神保健福祉士でなど多職種で連携し、患者さんと退院を目指していくプログラムです。実際にTSTを通して退院された長期入院の患者さんもたくさんみえます。児

童・思春期エリアは、10歳～19歳の精神疾患を持つ子どもたちを対象にした病棟です。慢性期開放エリアとは異なり、話そう集会(集団精神療法)や学習の時間などがあります。他にもスポーツクラブ、やってみようクラブ(作業療法)など曜日別のプログラムが設けられています。入院する子どもたちは、皆、対人関係による多くの傷つきを体験しています。そんな子どもたちの人と人のつながりが回復するように、医師、看護師、臨床心理士など多職種で日々関わっています。

看護師 高垣 尚子



運動会を開催しました



10月3日作業棟体育館にて毎年恒例の院内運動会が開催されました。1,2,5,6病棟とデイケア、作業棟外来患者様の合同で行い、多くの方々にご参加いただきました。

競技は玉入れや障害物競走、大箱ころがし、巨大オセロ、菓子くい競争、二人三脚があり、それぞれ皆さん楽しんで運動会に参加されました。中でも二人三脚では医師や病棟師長も参加し、白熱した競技で大いに盛り上がりました。当日はボランティアとして患者様にも運営に携わっていただき、場内アナウンス

や準備体操の見本、各競技のデモンストレーションなどを行っていただきました。参加された患者様からは、「楽しかった」という感想が多く聞かれ、また、ボランティアに携わってくださった患者様からも「参加できて良かった」という感想も頂きました。

来年も多くの方々に参加して頂き、楽しんでいただけるようスタッフ一同協力して頑張ります。

作業棟 運動会準備委員



外来診察の御案内

平成25年4月1日現在

	月	火	水	木	金
第1診察室	芦澤	木村	吉岡	酒井	菅原
第2診察室 (初診)	木村 (第1) 矢倉 (上記以外)	酒井 (第1・3) 横山 (上記以外)	菅原(第1・3) 高木(上記以外)	小林(第1・3) 横山 青木(上記以外)	金田(第1・3) 芦澤(上記以外)
第3診察室	舟橋	高木	舟橋	芦澤	横山
第4診察室	小林	青木	小林	矢倉	木村
第5診察室	東	菅原	横山	吉岡	青木
第6診察室	酒井	古川	矢倉	金田	高木
午後診	金田			東	東

(注1)受付時間は、8:30～11:30です。(注2)家族相談、訪問看護、セカンドオピニオンも行っております。詳細につきましては、お問い合わせください。

(注3)再診の場合は、予約診療も行っております。

病院へのアクセス



名古屋方面から電車・バスで

- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、市バス藤丘12系統 東谷山フルーツパーク行き乗車、東尾張病院南下車徒歩約5分
- JR中央線・地下鉄名城線大曾根駅下車
 - ゆとりーとライン志段味スポーツランド経由中志段味行き乗車、東尾張病院下車
 - 名鉄瀬戸線で印場駅下車徒歩約20分、又は旭前駅下車後タクシーで約8分

名古屋方面から乗用車で

- 瀬戸街道(県道61号線)印場西交差点を北上、4つ目の信号「労災病院西」を左折してすぐ左手

春日井方面から乗用車で

- 竜泉寺街道(県道15号線)吉根東交差点(イヨン守山店)を南下し、二つ目の信号を過ぎて約500m行った右側

病院バスの運行経路・時刻表

午前	午後
病院発 8:40	病院発 15:40
神領駅 8:50	旭前駅 15:45
守山イオン 8:55	藤が丘 15:55
病院着 9:00	病院着 16:10
病院発 9:05	病院発 16:15
藤が丘 9:20	守山イオン 16:20
旭前駅 9:30	神領駅 16:25
病院着 9:35	病院着 16:35

※土曜、日曜、祝日は運休します。

病院マイクロバス乗り場案内

病院……当院玄関東側の車庫前
旭前駅……名鉄瀬戸線旭前駅ロータリー小川歯科前
藤が丘……地下鉄藤が丘駅西側のパチンコ店角
神領駅……中央線神領駅ロータリーのコンビニ前
守山イオン……イヨン守山店南東側の高架下

※交通事情により多少遅れることがありますので御了承下さい。

